2007.4

かがやき KAGAYAKU 24

題字：木版 西野一男さん

生涯学習情報紙：生きがい探しのパートナー

感動人生！ ここに生きる元気な入間人（びと）

▲「どんな楽しいことが起きるのかな？」

◀放水練習
「ぼくたちも消せるよ」

▲「消防士になるぞ！」

▲見守るお母さん

▲煙中脱出「けむかったぁ」

■入間市幼年防火クラブ連合会 会長　小泉泰人さん（野田）

火の用心　三つのお約束

一、わたしたちは　ぜったいに
　　火あそびは　しません
二、お父さん　お母さん　先生方との
　　やくそくを　まもります
三、わたしたちは　れいぎ正しく
　　すなおな　子どもになります
　　わたしたちは　まもります　火の用心

この三つが入間市幼年防火クラブ連合会の「防火の誓い」です。市内二〇の保育所、保育園の幼児たちが会員で、その発起人が「ゆりかご保育園」の小泉園長です。

きっかけは、消防団員がなかなか集まらない実情を知り、それならば幼児期から関心を持ってもらおうと呼びかけて昭和六十年に発足しました。当時の「市民まつり」に参加し、消防ハッピを着てパレードするかわいい姿は大好評！以後、毎年参加し、幼児たちと「火の用心」を訴える活動を続けています。使い捨てライターが出回った頃、子どもの火遊びから火災が多く発生し、これを機に幼児教育の一環として「みんなのお家が燃えたらどうなるの」「大事なおもちゃが燃えたらこまる」「寝る場所がなくなったらかなしい」こんな会話を繰り返し、子どもたちは「火遊びは絶対しない」とお約束をしてくれました。「今、家庭教育の問題が取りざたされていますが、遊びの中から、どんなことが危ないか、年下の子に対するいたわり、あいさつなど、保育園を大きな家庭と考えて、多くの時間を園で過ごす幼児たちのしつけも大切にしています。」小泉園長の言葉が心にジーンと響いてきました。

▲「パレードに出発だぁ」

■二つの金子公民館　金子地区文化協会 会長 栗原桂一さん

なんと半世紀もの交流！

愛媛県新居浜市と入間市、両方に金子公民館があります。

昭和三十一年から続いているという二つの公民館の交流の様子を金子地区文化協会会長の栗原さんに伺いました。

「新居浜市には入間市と同じ金子小学校も金子という地名もあるのですよ。新居浜市の英雄金子備後守元宅は金子十郎家忠の十六代目子孫です。お互いに何回か行き来があって昭和六十二年に姉妹館になりました」。

なんと半世紀もの間、活発な交流が続いているとは驚きでした。皆様のお人柄とチームワークの賜でしょうか。

公民館の文化祭には「新居浜コーナー」を設け送られてくる作品を展示。俳人正岡子規の出身地・愛媛県は俳句が盛んです。句集を毎月交換し合い、作品の添削指導を受けてレベルアップしているとか。

「郷土史を研究すると本には書いてないさまざまな事が分かって楽しいですよ」と目を輝かせる栗原さんは魅力的でした。

この交流が末永く続きますように…。

▲二つの公民館交流風景

■駒がオモチャでした　狭山小学校・中村勇平君（十一歳）歩実さん（八歳）

プロ棋士（きし）を目（め）指して

好きな科目は「数学」というアマチュア四段の勇平君と初段の歩実さん。長兄・亮介さん（二十一歳）はプロ棋士。姉の桃子さん（十九歳）は女流育成会所属。父・光広さんの影響で勇平君と歩実さんはハイハイをし始めた頃から駒と遊んでいたとのこと。三歳、五歳頃から親子で東京・千駄ヶ谷の将棋道場に行き大人に手解きを受けていました。

▶時計係、記録係、解説がつく中、駒を指すりりしい着物姿

現在、土日にはお弁当持参で、あの羽生名人が力をつけた八王子将棋クラブに通い、その成果は各地の子供大会で優勝、準優勝、ベスト8入りなどの好成績。JT将棋日本シリーズ公開対局の「こども将棋大会」小学生以下の高学年部に勇平君、低学年部に歩実さんが共に決勝ステージへ進み、歩美さんは見事優勝。A級棋士と同じ舞台で指すこの上ない経験をされました。

「お兄さんのようにプロになりたい」と夢をもって厳しい道を歩む勇平君と歩実さん。なかなか夢がもてない子どもたちが多い中ですてきな二人でした。

■戦時中も続けた獅子舞　藤沢獅子舞保存会四代目会長　澤田重夫さん

受け継がれる七百余年の伝統

「子どもの頃は、天狗が来た！へんな格好して！と同級生によくからかわれたものの、やめたいと思ったことは一度もない」と凛とした面持ちで語る藤沢獅子舞保存会四代目会長の澤田重夫さん。七歳より獅子舞を始め七〇年。七五〇年の歴史ある藤沢の獅子舞を受け継ぎ、伝え続けておられます。

藤沢の獅子舞はその舞を「狂い」と言い、二頭の牡獅子が牝獅子を奪い争います。足踏み、頭の振り方を特に重視し、太鼓のバチさばき一つにしてもきびしく定められています。毎年十月の第三土曜日は金刀比羅神社で、続く日曜日は熊野神社で、五穀豊穣、商売繁盛、厄除け祈願の奉納の舞を行なっています。

「先代の教えを守り、戦争中も休むことなく続けてきました」と澤田さん。若者が戦地へ駆り出された時は、お年寄りが代わりを務め、人集めのために貴重なさつま芋やじゃが芋を配ったそうです。

今は子どもも大人同様に忙しくなり、幼い頃から始めても続けられるお子さんは少ないそうです。澤田さんのお子さんは娘さんのため、男系継承の獅子舞は出来ませんでしたが、やがて待望の孫の智史さんに恵まれました。智史さんは二十五歳の今も続けておられます。「お年寄りから若い人まで一緒に行う獅子舞は、良い経験になります」と智史さん。七五〇年の伝統は、確実に次の世代へも受け継がれています。

▲キャリアによって舞う獅子の色が違います
左から頭獅子（茶、20～25年）牝獅子（赤、7～8年）牡獅子（黒、10～20年）

■親として、人として、燃えて生きる岡田三矢子さん（扇町屋）

熱き思いの子育て日記を本に

「マコちゃんのひとりごと」

一昨年十二月に発行されたこの一冊の本が、昨年第五回日本文芸アカデミー賞を受賞。著作者は扇町屋に住む岡田三矢子さん（七十六歳）。生まれながらの難病を背負って生きるひとり息子と共に歩んできた人生を日記や手記に綴り、「のん気・本気・根気」の三気を持って、明るく、強く生きようとする母の姿勢を克明に描いた感動の作品です。

岡田さんは入間市生まれ。昭和三十二年に大阪へ嫁ぎ一人息子誠さんが生まれました。しかし、その夫は四十九歳の若さで他界。誠さんと二人だけの生活を余儀なくされ、二十三年前に帰郷して来ました。

大阪では絵画教室を開いて生計を支え、誠さんもその感性を受けて十代に入ってから夢中で絵を描くようになり、その作品は「岡田誠展」として市民ギャラリーやアミーゴでも披露され、カレンダーの挿絵にもなっています。

「マコちゃんのひとりごと」は、その絵を通しての言葉を生き写したものであり、そこには我が子の世界に入り、共に生きようとする気概と深い愛の姿が込められているのです。

▲岡田さんは現在「現代俳句協会」会員
その思いは句集「虚空」にも託されています

■救命ボランティア団体FAD（ファッド）代表　横峰貴子さん（下藤沢）

誰もが命を救える天使になれます

「きちんとした応急手当の指導を受けていれば子どもからお年寄りまで、専門家でなくても救命はできます。知識があれば指の切り傷とか、頭のたんこぶとかで救急車を呼ぶようなこともなくなり、救命率を高めることもできます」と熱く語られる横峰さん。救命ボランティア団体であるFAD（ファッド）の代表を務めていらっしゃいます。

横峰さんは、台風で遭難した船の乗組員を助けた人命救助の話が四百年も語り継がれる千葉県の御宿町で生まれ育ちました。子どもの時に感動し、大切なものと考えたことが今の活動の原動力になっているそうです。「だから子どもたちに救命や応急手当の知識を教えたいし、家庭では、子どもが熱湯をかぶったとか、ひきつけなどがあった時でも慌てずに対応できるように指導したいです」と応急手当ての知識の大切さを語られる熱意は尽きません。

応急・救命手当ての普及・指導活動を目的に平成十三年に発足したFAD（ファッド）。命の尊さを体験を通して伝えるこの方たちの活動は入間市の救命率を確実に変えていくでしょう。

▲中学生に救命の手技を指導するFAD（ファッド）のメンバー

古木・巨木と生きる

■出雲祝神社　宮司　西村 勉さん（宮寺）

「一つの夢の世界のような・・・」

2000余年の歴史を伝承し、参道を彩る藪椿▼

「古い藪椿は、幹の太さから推定して二～三百年は経っているでしょうね。花が咲くと本当にきれいです。花が落ちると敷いたように真紅になって、女の子たちが竹の小枝に通してレイを作って遊んだものでした。花が落ちているだけでも一つの夢の世界のような雰囲気があり、雪の日はことさらです。今もこの風景は同じですね」と話される日本画家西村勉さんは「寄木の森」に鎮座する出雲祝神社の宮司でいらっしゃいます。

二千余年の昔、人々が東国に下ったとき、出雲大社の森の種子を運び来て入間野に蒔きました。藪椿の種もその一つ。湾の流木を寄せて建立された「寄木の造営」といわれる出雲大社に由来する「寄木の森」です。

「幼い頃、かくれんぼも鬼ごっこも樹に登って枝から枝へ逃げたり隠れたり・・」。思い出込めて教員時代に椿の実と紙やすりを用意して生徒に募った笛作りは、大評判でした。

近年、環境の悪化から杉と楠の巨木が二〇本も枯れ失せました。惜しむ西村さんは「いつまでも枯れずに参拝者を楽しませてくれたら一番いいと思っています。特に子どもたちに野生の花の美しさ・素朴さを感じてもらいたい」と強く願っていらっしゃいました。

■手作りの音楽会を娘さんと　吉田愛子さん（小谷田）

音楽もお花も生（なま）、お菓子も手作り

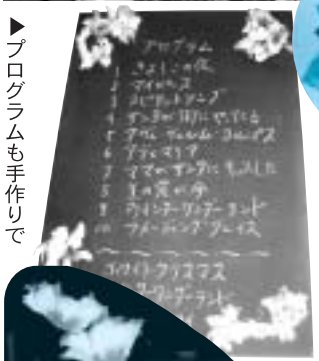
若々しく美しいお姿は「吉田さん」より「愛子さん」とお呼びしたほうがお似合いの方でした。

都内のシャンソンライブハウスで歌われるかたわら、自宅の練習室で月一回手作りのコンサートを開いていらっしゃいます。長女はマリンバを演奏し、次女は会場の花のアレンジを担当。ご自分はシャンソンやリクエスト曲を歌われ、手作りのお菓子まで味わえるカフェ付きの心和む音楽会です。

六年前、ご主人が仕事上大変苦しまれていた時、元気づけにと思ったのがきっかけだそうです。周りの方々の応援に励まされ、何もないところから家族で力を合わせて始められたのが好評を得て、今に至っているとのことでした。

音大を卒業後、敢えて主婦としての道を選ばれた愛子さん。家庭を第一に考え、ご自分の夢は後回しにしてこられました。主婦としての充実した日常の蓄積が五十代になって始められた手作りのコンサートを輝かせ、多くの方に温かく幸せな気持ちを与えてくださっているのです。「皆さんは癒される、心和むとおっしゃいますが、実は私たちが元気と温かさをいただいています」と謙遜なさる愛子さん。

夢の実現を焦らず、日常に感謝しながらていねいに生きてこられた愛子さんの、その生き方からも、多くの主婦たちは勇気づけられるのではないでしょうか。



▶プログラムも手作りで

◎生涯学習サークル・教室情報 ～学び場登録情報～

サークルや教室の情報をまとめた「いるま学びの場～入間市生涯学習サークル・教室情報～」に掲載する情報を募集します。

対象
- ☆ 入間市内に活動場所があること。
- ☆ 一般市民が参加できること。
- ☆ 年間を通じて継続的に活動していること。
- ☆ 特定の政治・宗教・悪質な商法等に関わっていないこと。

発行は入間市教育委員会と入間市生涯学習をすすめる市民の会が行っています。

大募集！！

◎生涯学習情報紙「かがやく」編集委員

本紙「かがやく」の編集ボランティアを募集します。

活動内容
- ☆ 生涯学習情報紙「かがやく」（年2回発行）の企画・取材・編集等の活動

資格等
- ☆ 生涯学習活動に興味のある方。年齢・経験は問わず。

※あわせて「かがやく」で取り上げて欲しい人物や活動等も随時募集しています。

◉編集後記◉

◎万葉集にも詠われ観賞されてきた椿。なぜ「椿」の文字になったかは不明のまま。江戸初期の手書きの記録書には愛でる心が満ちていました。（E）

◎一九六二年にテレビで放映されてから、将棋は子供たちにも人気です。礼儀や最後まであきらめない気持ち、自分で責任を持つなど育てるのに最適です。（O）

◎一つのことを続けてこられた方のパワーは本当にすごいです。何世代にも亘って受け継がれてきた伝統に大感激です。（K）

◎入間市在住十六年、よそ者の私が今回の取材で初めて入間市の歴史に出会い、ますます入間市が好きになりました。これからが楽しみです。（SS）

◎かがやいている方を取材している幸せを感じています。エネルギーをいただいたり、感心したり…。心の豊かさが素晴らしい方々…。（S）

◎人生夢ありきと言います、何事も一生懸命に生きている人の姿ほど美しく素晴らしいものはありません。人間の命は感動あってのものだと思います。（N）

◎すてきな方々の活動を十分に紹介しきれない狭い紙面に今回は特に悩み悔やみました。応援の気持ちをいっぱいお送り致します。（Y）

企画編集：「かがやく」編集委員会
発行：入間市教育委員会生涯学習課

お問い合わせ　入間市教育委員会生涯学習課
連絡先　〒358-8511　入間市豊岡1-16-1
TEL 04-2964-1111（内線4123）　FAX 04-2964-4841

編集委員（五十音順）：遠藤マサ　岡崎幸子　蔵本恵子　斉藤志津子　酒井勲雄　西垣寿夫　尹（ユン）英淑